

## 調査報告書

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3770300329		
法人名	医療法人社団 五色会		
事業所名	グループホーム たまもよし		
所在地	香川県坂出市加茂町194番地1		
自己評価作成日	平成28年11月28日	評価結果市町受理日	平成29年2月28日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

日々の生活リズムを大切にしながら時間をかけて一人ひとり対応し利用者さんが不安にならないように配慮しています。利用者さんの得意な事、好きなことを引き出せるようまたは、継続できるように支援しています。老人保健施設と併設しており、医師、看護師、作業療法士、管理栄養士等の交流も簡単にできるので、利用者さんのちょっとした変化等の相談もでき、利用者さんも安心して生活ができるように努めています。季節ごとに景色のよい場所、近隣のカラオケや喫茶に行き、地域との交流も深めれるように取り組んでいます。

**基本情報リンク先**

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社astream alliance		
所在地	香川県さぬき市津田町2360-111		
訪問調査日	平成29年1月20日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】**

地域においては医療と介護を切れ目なく実践できる事業所として期待されている。老人保健施設や介護付き有料老人ホームと共同で各種の行事や研修委員会を立上げ、サービス向上に法人全体で取り組んでいる。事業所は法人全体の理念以外に、職員はグループホームの理念、「いつも笑顔でゆとりをもって」を独自に作り、自ら実践している。入所者は一人ひとりの個性や人格を尊重し、事業所になじみ落ち着いて生活をしている様子がうかがわれる。終末期には、看取り介護にも職員全員で取り組み実績を積んでいる。近隣に民家が少ないなかで、普段から家族の訪問も多く、人間関係など信頼関係は良好である。今後も一層、利用者ファーストに立つ介護を期待しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 1 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念 I-3771600636</b>					
1	(1)	○理念と共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつも笑顔でゆとりをもって」を事業所の理念、目標としている。安心、笑顔になるような声かけ、日々の生活リズムを大切にしながらも焦らずゆとりを持って時間をかけるように実践できるよう努めている	事業所の理念は職員が全員で考えて作られたものであり、全員に浸透している。いつも笑顔でゆとりを持つことで、一人ひとりに対する丁寧な対応がなされている。また、職員の年齢層がバランスよく配置されており、誰に対しても明るい挨拶がみられるなど明るい雰囲気である	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員としての日常的に交流している	保育園の祭り、文化祭の出展など地域の行事に参加できるよう努めている。また近隣の喫茶店やカラオケに行き交流できる機会を増やしている	他事業所と合同ではあるが、継続して地域の保育所やボランティア団体との交流がなされている。また、月2回近所のスーパーが出張販売にこられており、利用者も楽しみにされている。外出ではカラオケ店や喫茶店などを利用し、自然と交流ができる機会となされている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の対応や実践したことなど運営推進会議などで話し合いサービスの向上に向けて取り組んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回運営推進会議を開き、市の職員や地域の方と話し合っている。現在しているサービスの報告、評価を話し合い、今後のサービスの向上として意見をいただいている	2か月に1回は定期的に運営推進会議が開催されている。担当の市職員や元地域の婦人会会長が参加されている。職員が議題を吟味して提案されており、意義深い会議がなされている	ご家族やご本人の参加、また地域から参加出来る協力者を増やすことにより、さらに事業所のサービスの向上につながる会議になるよう期待します
5	(4)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催のグループホーム協議会でケアに関する相談や地域の活動の様子等話し合っている。認知症窓口を作り協力関係を築くようにしている	市が主催する協議会に参加して、他施設と共同でケアサービスの向上と地域福祉に貢献ができるよう話し合いがなされている。また市の職員が行っていた認知症相談の窓口を当事業所も受け入れられるよう協力がなされている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を1か月に1回している。また身体拘束の勉強会を事業所内で実施し身体拘束の対象となる行為を話し合い、職員の理解を深めている	老人保健施設や介護付きの有料老人ホームと委員会を立上げて合同で研修がなされている。参加できなかった職員には、記録の閲覧や伝達など工夫、話し合いをして理解が深められている。見守り、寄り添うケアが重視されており、夜間を除き玄関や事業所の入り口、窓には施錠はされていない。また点滴時の身体拘束などもされていない	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で高齢者虐待防止に関する理解を深め、尊守に向けた取り組みが出来ている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の必要なケースはなく、必要があれば職員間で話す機会をもち支援していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のケアに関する考え方や対応可能な範囲について説明を行っている。将来のことを含めて本人さんと家族さんと相談しながら理解を得られるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日々の支援の中で意見を聴けるようにかかわっている。家族さんからは面会や電話で話し合いをしている。意見、要望があれば苦情委員会やミーティングで話し合い運営に反映できるようにしている	日頃より、家族の面会は比較的多く、職員と話す機会も多いので、利用者に言いにくいことは家族が代弁したりと信頼関係が構築されている様子である。また、利用者第一に考え対処されているので、苦情は出ていないとのことである	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は普段から職員の意見を述べやすいように心がけている。また連絡帳に意見やアイデアを書いたり幹部会で話し合い業務改善ができるように機会を設けている	職員より人間関係が良好であり、働きやすい職場である、と聞き取る。連絡ノートなどは明確に記載されており、意見やアイデアも記載されている。事業所での職員の総意はホーム長が取りまとめ幹部会で検討がなされている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら、職場で活かせる労働環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を段階に応じてなるべく多くの職員に受講できるようにしている。また勉強会等で発表し研修資料を閲覧できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に連絡会があり交流の機会を設けサービスの向上に向けて取り組んでいる		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日本人さんと会話しながら思いや不安を受け止め安心できるような環境作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ゆっくり話を聞き家族さんが求めているものを理解し、ニーズの対応できるよう職員間で話し合っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人さんや家族さんの思いを大切にし可能な限り必要な対応を行っている。場合によっては他の事業所のサービスにつなげるなどの対応もしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人さんの得意な部分を發揮してもらい、ともに過ごして支えあう関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人さんの日々の様子を伝え相談しながら良い関係を築いていけるよう心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんの久しく会う友人が面会に来られた時など自室や面会室でゆっくり過ごしてもらおう配慮している。また家族さんの了解のもと知人との外出ができるように努めている	事業所では利用者の外出支援に協力する取組が行われているが、車いすの方など外出に多くの支援を必要とされる方が増えている状況が伺える。また、事業所内でもゆっくりすごせるよう配慮と工夫がなされている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の仲の善し悪しに配慮し、孤立してしまわないように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、経過を見守ったり、相談の支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情から本人さんの希望や意向を把握に努めている。家族さんや知人からも相談しながら話し合っている	職員がバランス良く配置され、利用者との関わりが多く、にぎやかで活気が伝わってくる。職員は利用者本位の立場に立ち、日々の関わりの中から得た情報をもとにご家族と相談し合いながら本人意向の把握に努められている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で本人さんの個性や価値観の把握を努めている。また家族さんの力を借りながら継続的に把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さんの生活リズムを把握して、暮らしの中でできる力を発見できるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人さんや家族さんから日頃の関わりについて思いや意見を反映できるように努めている。職員で話し合ったアイデア、意見も取り入れ介護計画を作成している	介護計画は3か月ごとに作成されている。計画作成者も現場に入り利用者の心身の状況を把握、他の職員の意見やアイデアと協議しながら作成がなされている。また家族らの意見も参考に共同での計画作成が伺える	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記入し、職員間で情報の共有に努めている。また記録をもとに介護計画の見直しや実践に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人さんや家族さんの要望に出来る限り対応している。外出、通院、送迎の支援も臨機応変に支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員や朗読ボランティアなどに来ていただき地域の人の力を借りて支援できるようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人さんや家族さんが希望するかかりつけ医や病院に受診できるように支援している。医療機関との情報交換、連携を努め関係を密に努めている	入所時に受診先を聞き、本人や家族の要望に基づいた医療が受けられるよう支援がなされている。系列の協力病院への受診希望が多いなか、嘱託医や専門医への受診にも事業所が送迎を行うなど協力がなされている。病状や服薬については老人保健施設の看護職員が加わり把握し、健康管理してもらっている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に日頃の健康管理や状態変化の対応、助言を行ってもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に本人さんの情報交換や看護サマリーを作成し医療機関との連携を強めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けたマニュアルを作成している。本人さんや家族さんの意見を確認しながら医療機関との連携しながら対応している。終末期でも本人さんや家族さんの気持ちをくみ取りながら出来ること出来ないことを話し合い取り組んでいる	本人や家族の意向を何度も確認しながら看取り介護が行われている。医療のサポートを受けながらマニュアルに沿ったケアが実践されており、職員間の連携を密に事業所で行われていることを確認しながら看取りが行われている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成しており、定期的に勉強会等で話し合っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の老人保健施設と合同で定期的に防災訓練、土砂災害避難訓練を行っている。消火器の訓練や非常用備品の確認も行い災害時に混乱しないように準備している	同所の老人保健施設の2階が地域の避難所に指定されており、自主防災の組織としての在り方が日頃から考えられている。定期的な避難訓練以外に食料の備蓄や自家水源の確保など課題をもって検討がなされている	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助時に、まずは本人さんの気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけている。利用者さんの尊厳を尊重し、自己決定しやすいように声かけをするように努めている	一人ひとりの性格や生活パターンにあった関わり方が心掛けられており、職員は本人の嫌がることは無理強いせず気長に接することで、本人の意思を尊重したケアが実践されている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの状態に合わせて本人さんが決めやすい場面を作り支援できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れを大切に一人ひとりのペースに合わせた対応を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人さんのこだわっているスタイルを把握し、その人らしさを保てるよう支援している。衣類の汚れ等はプライドを守りながらさりげなく支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は併設の管理栄養士が作成し調理している。食事前の台拭きやお茶の用意など利用者様と共に行い、食事が楽しみになれるよう行っている。利用者様の食べたいものや栄養状態を相談することもしている	以前は事業所内で調理を行っていたが、現在は副菜が他施設の調理に依頼されている。食事の準備や後片付けで利用者が出てくることには声をかけ、職員と一緒に進んでいる。なるべく個人の嗜好にこたえるよう管理栄養士と献立等を相談し、食事を楽しむ工夫もなされている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量をチェックし誤嚥などに気をつけている。また本人さんの好きなものや食べやすいものを出すようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯磨きができる方は声かけや見守りをしながら行っている。出来ない方は職員が介助している。定期的に歯科受診を行い、口腔清潔の維持、指導ができるように対応している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、利用者さんの様子などを察知し身体能力に応じて手をさしのべたり、介助を行っている。トイレでの排泄を大切に本人さんに合った対応を行っている	日中はリハビリのためにも、トイレでの排泄への援助が中心に行われている。また、様子変化や排泄のサインを気づいた誘導がなされている。夜間は特に見守りに気を付け事故が起こらないよう配慮がなされている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し水分補給や適度な運動をしていただき便秘の予防に努めている。食事のバランス、薬の調節も個々に合わせて対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	曜日に関係なく毎日入浴できるようにしている。その日に入りたい方やゆっくり浸かりたい方など気持ちや習慣に合わせて支援している	日中は曜日に関係なく入浴が実施されている。一人ひとりのペースに合わせた入浴支援がなされており、ゆっくり時間を取って入浴を楽しんでもらっている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が安心して、休息できるように日中活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。眠剤を飲まれている方には、日中の活動の妨げになっていないか確認している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の処方、効能、副作用の説明をファイルに保管し、職員が分かるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえよう、できそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。また、時間の取れる限り外出の機会をはかっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のカラオケや喫茶に行ったり、季節ごとに外出支援をしている。また、家族さんの協力のもと外出できるように支援している。	外出の機会には何人かで出かけているが、一人ひとりに配慮した外出は身体状況により困難になっている方が増えている。また、外出には事業所内外での調整が必要とのことである	日常的な外出が困難になってきている利用者が増えている現状ではあるが、希望される方やご家族もいるので、更に要望に沿える支援ができるよう期待します
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族さんの協力も得て少額のお金を持っている方もいる。外出時の料金の支払いなどなるべく自分で払っていただけるようにお金を手渡すなど工夫をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけた方は本人さんが好きな時に使用していただいている。ちょっとしたお礼や近況報告も通信のきっかけとしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月1回華道教室に参加し季節感のある花を居室に飾っている。フロアの飾りつけに職員や家族さんがもってきた花や利用者さんが作成したものを飾ったりして居心地よい空間づくりに努めている	内装は利用者の身体状況に合わせて、木目調の床にリホームされており、靴履きで外部から出入りできる。暖色系の明るい、オレンジ色の椅子やベンチ・ソファが廊下に配置されている。また、季節感が感じられる花などの装飾に加え庭園なども整備されており、自然豊かな静かな環境の中で過ごせるよう工夫がなされている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル、椅子の配置に配慮し少人数でもくつろげる工夫をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には本人さんの家族の写真や思い出の物を飾り、やすらぎが感じられるように配慮している。テレビや家具の配置など本人さんの希望にそって配置している	居室には洗面所・洋式トイレがあり、ベッド・床頭台・タンスも設置されている。配置は利用者の希望に沿って行われており、それぞれ家族の写真などの思い出の物も飾られている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人さんにとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を状況に合わせて環境整備に努めている。職員も混乱や失敗がないように話し合いをしている		